

問1 関東地方の地形と土壌の関係について、関東平野の台地を広く覆い、その性質から畑作や茶の栽培に利用されてきた「赤土」の層は、主にどの火山の活動によって形成されましたか。（2021年 静岡公立入試 類似）

1. 富士山・箱根山      2. 阿蘇山・桜島      3. 大雪山・十勝岳      4. 雲仙岳・阿蘇山

問2 千葉県は、京葉工業地域を中心とした製造業が盛んな一方で、農業も非常に活発です。特に野菜の産出額が全国的に高い水準にありますが、このように大消費地である都市の周辺で行われる、新鮮さが求められる野菜などを生産する農業の形態を何と呼びますか。（2024年 新潟県公立入試 類似）

1. 近郊農業      2. 促成栽培      3. 抑制栽培      4. 適地適作

問3 栃木県の冬の気候について、北西の山地側から吹き下ろす乾燥した季節風の影響により、晴天の日が多く、日照時間が長くなるという特徴があります。この現象が起こる背景として、地形と風の間を説明した記述のうち最も適切なものはどれですか。（2022年 岡山公立入試 類似）

1. 日本海側から吹く湿った季節風が、本州中央部の山地を越える際に水分を失い、乾いた風となって栃木県側に吹き下ろすため。  
2. 太平洋側から吹き込む暖かく湿った季節風が、渡良瀬川や鬼怒川などの河川沿いに北上し、山地で乾燥した空気に変化するため。  
3. 冬の冷たい季節風が関東平野で上昇気流となり、山地で雪を降らせた後に、再び湿気を含んだ風として平野部へ戻るため。  
4. 南東の海側から吹く季節風が、栃木県北西部の山地によって遮られることで、平野部に湿った空気が届かなくなるため。

問4 日本の大都市圏における人口動態を分析した際、千代田区などの東京都心部で見られる特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）

1. 昼間人口を夜間人口で割って算出される数値が、100%を大きく超えている。  
2. 都心から郊外へ向かう通勤・通学者が多いため、昼間人口が夜間人口を下回っている。  
3. さいたま新都心のように都市機能の分散が進んだため、昼間人口と夜間人口がほぼ等しい。  
4. ドーナツ化現象が完全に解消された結果、夜間人口が昼間人口を上回るようになった。

問5 1985年に発行された八王子市の地形図では山地や森林が広がっていた地域が、2015年の地形図では大規模な区画整理が行われ、新たな住宅地へと変化しています。この地域の開発に伴い、新しく地図上に描き加えられた鉄道駅の名称として正しいものを選びなさい。（2021年 群馬県公立入試 類似）

1. 八王子みなみ野駅      2. 高尾駅      3. 北八王子駅      4. 片倉駅

問6 2021年の農業統計において、千葉県は農業産出額が3,853億円にのぼり、全国でも有数の農業県となっています。この県で、農業産出額のうち野菜と畜産の合計が全体の約3分の2を占めている理由として、地理的な背景をふまえて説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 山口公立入試 類似）

1. 巨大な消費地である首都圏に近く、輸送コストを抑えながら鮮度が求められる野菜や畜産物を出荷できるため。  
2. 広大な十勝平野のような平坦地を活かして、機械化による大規模な畑作や酪農が展開されているため。  
3. 黒潮の影響による温暖な気候を利用して、ビニールハウスなどを用いて野菜の収穫時期を早めているため。  
4. 傾斜の多い地形を活かして、水はけの良さを必要とする果樹栽培が古くから地域の主産業となっているため。

問7 日本最大の流域面積を持つ河川と、その流域が広がる関東平野の自然環境について述べた文として、正しいものはどれですか。（2023年 和歌山公立入試 類似）

1. 利根川が流れ、冬には山を越えてきた乾燥した北西の季節風が吹く。  
2. 信濃川が流れ、冬には山を越えてきた乾燥した北西の季節風が吹く。  
3. 利根川が流れ、冬には太平洋から湿った南東の季節風が吹く。  
4. 信濃川が流れ、冬には太平洋から湿った南東の季節風が吹く。

問8 農業産出額の部門別割合を示した資料において、野菜の占める割合が約40%と全国でも最も高く、米の割合が約10%と低い特徴を持つ地方があります。この地方が、他の地方（北海道、九州地方、近畿地方など）と比較して、特に野菜や花きの生産割合が高くなる理由として最も適切なものはどれですか。（2019年 奈良公立入試 類似）

1. 人口が密集する巨大な消費地が近く、輸送コストを抑えて新鮮なうちに販売できるため  
2. 広大な土地を利用して、機械化による大規模な畑作や畜産を効率的に行っているため  
3. 温暖な気候を利用して、他の地域よりも収穫時期を早める工夫をしているため  
4. 冷涼な気候を利用して、夏でも高原野菜などの生産を大規模に行っているため

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 富士山・箱根山	関東ローマは、関東平野の西側に位置する富士山や箱根山などが噴火した際、偏西風に乗って運ばれた火山灰が堆積して形成されました。九州地方で見られるシラス（シラス台地）の供給源である阿蘇山などと混同しないよう注意が必要です。
問2	<b>答え 1</b> 近郊農業	都市の周辺で、市場に近い立地条件を活かして野菜や花などを生産する農業を近郊農業と呼びます。千葉県は巨大な消費地である東京都に隣接しているため、輸送費を抑えながら鮮度の高い農産物を出荷できる強みがあります。これに対し、促成栽培や抑制栽培は、出荷時期をずらす工夫をする栽培方法を指します。
問3	<b>答え 1</b> 日本海側から吹く湿った季節風が、本州中央部の山地を越える際に水分を失い、乾いた風となって栃木県側に吹き下ろすため。	日本の冬は、ユーラシア大陸から日本海を渡って北西の季節風が吹きます。この風は日本海で水分を蓄えますが、奥羽山脈や三国山脈などの高い山地を越える際に、日本海側に雪を降らせて水分を失います。その結果、山を越えた栃木県側には乾燥した風が吹き下ろし、雲が発生しにくいいため、晴天の日が多くなり日照時間が長くなるという太平洋側の気候の特色が現れます。
問4	<b>答え 1</b> 昼間人口を夜間人口で割って算出される数値が、100%を大きく超えている。	昼夜間人口比率は「 $(\text{昼間人口} \div \text{夜間人口}) \times 100$ 」で算出されます。都心部では通勤・通学による流入人口が多いため、分母となる夜間（居住）人口よりも分子となる昼間人口が圧倒的に大きくなり、比率は100%を大幅に超えます。逆に、住宅地である郊外の都市では、都心へ人が流出するため、この比率は100%を下回る傾向にあります。
問5	<b>答え 1</b> 八王子みなみ野駅	1980年代半ばまで森林や山地が卓越していた八王子市南部では、大規模な宅地開発が進められました。これに伴い、1997年にJR横浜線の新駅として「八王子みなみ野駅」が開業し、2015年の地形図では駅を中心に整然とした街並みが描かれています。地形図を比較することで、短期間での土地利用の変化や交通網の整備を読み取ることができます。
問6	<b>答え 1</b> 巨大な消費地である首都圏に近く、輸送コストを抑えながら鮮度が求められる野菜や畜産物を出荷できるため。	千葉県は首都圏という巨大な市場に隣接しているため、生産した農産物を短時間で市場へ運ぶことができます。野菜は鮮度が落ちやすく、また畜産物も消費地に近い場所での生産が有利に働くため、この立地条件を最大限に活用した農業が発達しました。他の選択肢にある大規模畑作は北海道、促成栽培は高知県や宮崎県などの特徴です。
問7	<b>答え 1</b> 利根川が流れ、冬には山を越えてきた乾燥した北西の季節風が吹く。	利根川は、日本で最も広い流域面積（河川が雨水を集める範囲）を持つ河川です。なお、日本で最も長い河川は信濃川であり、混同しないよう注意が必要です。また、関東地方の冬は、シベリア高気圧から吹き出す北西の季節風が越後山脈などの高い山々を越える際、日本海側に雪を降らせて水分を失うため、乾燥した「からっ風」となって吹き下ろすのが特徴です。
問8	<b>答え 1</b> 人口が密集する巨大な消費地が近く、輸送コストを抑えて新鮮うちに販売できるため	関東地方の農業は、東京やその周辺の都市部という「大消費地」に隣接していることが最大の強みです。野菜や花きは鮮度が価格に大きく影響するため、消費地のすぐ近くで生産し、輸送時間とコストを最小限に抑える経営が合理的な判断となります。これに対し、大規模な機械化は北海道、収穫時期を早める促成栽培は九州（宮崎県など）や四国（高知県など）、冷涼な気候を利用した抑制栽培は長野県などの高原地帯の特徴です。